

教科(科目)	国語	総時数	140時間	学年(コース)	1学年
使用教科書	光村図書『国語1』				
副教材等	新学社『国語活用資料集』、文理『中学必修テキスト国語1年』、浜島書店『学習漢字ノート1』、文理『冬期課題テキスト』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	①高い学力・幅広い教養・学び続ける姿勢を身に付け、グローバル（地域的・地球的）な視野から社会課題を多面的に発見・考察し、その解決に向けて挑戦・行動・発信する能力を育成します。 ②高い倫理観、他者を思いやる心、傾聴する姿勢、豊かなソーシャル・スキルを持った人物を育成します。 ③リーダーシップ・フォロワーシップを身に付け、地域社会・国際社会と協働する態度を育成します。
カリキュラム・ポリシー	①中高一貫教育を生かし、高い学力と学び続ける姿勢を身に付ける教育課程を編成するとともに、すべての教科・科目において「深い学び」を実現します。 ②読書、新聞・図書室の活用を奨励するとともに、体験活動を取り入れた教育課程により、幅広い教養を育みます。また、探究の過程を重視するとともに、最新の教育方法を積極的に活用します。 ③4技能をバランスよく育成する英語授業を実践するとともに、「生きた英語」を学習する機会としての海外研修やさまざまな発表活動に取り組みます。また、積極的に国際交流活動にも取り組んでいきます。 ④アイデンティティを形成しつつ地域理解を深め、地球的視野で自分なりの社会課題を発見し、科学的な手法を用いてその解決を目指す課題研究を6年間通じて実施します。 ⑤6年間一貫した方針による道徳や人権教育等を実施するとともに、生徒会活動、部活動、課外活動を通して、主体的・自律的に考え行動し、互いに支え、高め合いながら協働的に活動することを重視します。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

3 指導の重点

- 課題解決のために対話活動を取り入れ、主体的に探究する態度と能力を育てる。
- 作文やスピーチなどの表現活動を充実させることで、自分の考えを表現する力を育てる。
- 日々の漢字や語句の学習を継続することで、語彙を豊かにするとともに、漢字検定4級の取得を目指す。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができる。	・筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにしていく。	・言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・小テスト、朝テスト ・レポートやワークシートなどの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・提出物 ・自己評価や相互評価の状況などから、評価します。
内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。			

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	言葉に出会うために	4 「B 書くこと」	学習ガイダンス 朝のリレー 野原はうたう	・国語を学ぶ意義、学習の仕方を理解する。 ・詩の音読を通して言語感覚を豊かにする。	4	授業態度
5	1 学びをひらく	9 「B 書くこと」 7 「C 読むこと」	シンシユン 漢字の組み立てと部首	・小説を読み、場面の展開の仕方を捉える。	16	授業中の活動 ワークシート 定期考査
6	2 新しい視点で	9 「A 話すこと」 7 「B 書くこと」	ダイコンは大きな根？ ちょっと立ち止まって 主張文を書く 文法への扉1	・説明文を読み、段落の役割や文章の構成を捉える。 ・主張文を書き、その発表をする。	16	授業中の活動 ワークシート 定期考査
7	3 言葉に立ちどまる	4 「B 書くこと」 10 「C 読むこと」	詩の世界 比喩で広がる言葉の世界 指示する語句と 接続する語句	・詩を読み、表現の効果を読み取り、表現を工夫しながら詩を創作する。 ・説明文を読み、文章の要旨をまとめる。	14	授業中の活動 ワークシート 定期考査
8	読書生活を豊かに	4 「B 書くこと」	読書を楽しむ	・小説を読むことを通して、自分の考えをもつ。	4	授業中の活動 ワークシート
9	4 心の動き	14 「C 読むこと」	大人になれなかった私たち…… 星の花が降るころに 方言と共通語 漢字の音訓	・小説を読み、描写を捉えるとともに、複数の表現を結び付けて読み深める。	14	授業中の活動 ワークシート 定期考査
10	5 筋道を立てて	7 「A 話すこと」 7 「C 読むこと」	「言葉」をもつ鳥、 シジュウカラ 大阿蘇	・記録文を読み、文章の構成と展開を捉える。 ・詩を読んで、表現の効果を考える。	14	授業中の活動 ワークシート 定期考査
11	6 いにしへの心にふれる	16 「C 読むこと」	いろは歌 古典の世界 蓬萊の玉の枝 今に生きる言葉	・古文を読んで、登場人物の関係を捉える。 ・古人の思いに触れ、自分の考えをもつ。	16	授業中の活動 ワークシート 定期考査
12	7 価値を見出す	7 「B 書くこと」 5 「C 読むこと」	「不便」の価値を見つめ直す 文法への扉2	・意見文を読み、目的に応じて要約するとともに、自分の考えをもつ。	12	授業中の活動 ワークシート 定期考査
1	読書に親しむ	4 「C 読むこと」	考える人になろう	・読書を通して、自分の考えをもつ。	4	授業中の活動 ワークシート 定期考査
2	8 自分を見つめる	9 「A 話すこと」 7 「C 読むこと」	少年の日の思い出 文法への扉3 さまざまな表現技法 漢字の成り立ち	・小説を読んで、語り手の視点から作品を読み取るとともに、自分の考えをもつ。	16	授業中の活動 ワークシート 定期考査
3		10 「C 読むこと」	随筆二編 さくらのはなびら	・随筆を読んで、複数の表現を結び付けて読む。 ・詩を読んで、自分の考えをもつ。	10	授業中の活動 ワークシート

計140時間 (50分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「話すこと・聞くこと」	B「書くこと」	C「読むこと」
	25 時間	35 時間	80 時間

7 課題・提出物等

・漢字ノート、必修テキストを中心に、授業の進度に応じて提示します。

8 担当者からの一言

国語の学習は「実技教科」と心得てください。「話す」「聴く」「書く」「読む」——それらの活動を、授業において全力で取り組み、技術を身に付けることが大切です。受け身の態度ではなく、積極的な活動が学力の向上につながります。
(担当：高野)